

化学品事業

当事業部の製品は、その多くが工業薬品であるアンモニア、硫酸、それらを川下へ付加価値展開した誘導品・高純度品で構成されており、幅広い分野で人々の暮らしを支えています。効率的な生産体制を構築し、優れた製品・技術を提供するとともに環境負荷低減にも努めています。



社会課題・ニーズ

- スマート社会の到来
- 地球環境問題の深刻化
- 社会課題を反映したさまざまな分野における新たなニーズの誕生

事業ビジョン

- ユーザーの高度な要求に的を絞った製品の開発
- 社会課題の解決に寄与する製品と技術の提供

基礎化学品

アンモニア・尿素・硝酸・硫酸などの工業薬品およびその誘導品類を多岐にわたる産業向けに販売しています。国内外の景気動向や原燃料価格の変動などの外部要因による損益影響を最小化し、より強固な事業基盤を構築すべく、一層の生産体制の効率化を進めています。

一方で、先端分野に対応する製品の生産・供給にも努めており、限界まで不純物を除去した高純度の硫酸・硝酸・アンモニアなどを市場に提供しています。

また、大気汚染の原因とされているディーゼル車の排ガスに含まれる窒素酸化物を、窒素と水に分解する高品位尿素水「アドブルー®」*の製造・供給システムを確立し、環境負荷低減に貢献しています。

* アドブルー®は、ドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標です。

ファインケミカル

プール・浄化槽向けの殺菌消毒剤「ハイライト®」、食品工場の排水中の油脂を分解する微生物製剤である「ビーナス®オイルクリーン」などの環境化学品や、化粧品などの用途で使用する高級アルコール「ファインオキシコール®」などを取り扱っています。

また、尿素的誘導品であるシアマル酸由来の高機能化学品として「テピック®」「メラミンシアヌレート」をラインアップ、テピック®は粉体塗料の硬化剤やソルダーレジストインキ、LED用封止材などの電子材料向けに用いられています。メラミンシアヌレートは各種エンブラのノンハロゲン系難燃剤・難燃助剤として使用されています。これら既存製品の用途拡大に注力するとともに、当社独自のシアマル酸誘導品の研究開発を推進しています。

2024年度の進捗

1 高純度硫酸

高純度硫酸は、今後も伸長を続ける情報通信分野での需要拡大を見込んでいます。2024年度の半導体工場は、メモリ市場の回復基調に加えAI関連市場の好調を受け稼働が上昇しました。この結果、出荷は増量し前年度から伸長しました。2025年度も出荷増量の見通しを立てています。引き続き、高品質・高稼働の維持に努めています。

2 シアマル酸

「シアマル酸」は、テピック®やハイライト®、難燃剤用途のメラミンシアヌレートなどの原料です。テピック®およびハイライト®を安定的に市場に提供するため、2020年12月にシアマル酸製造設備を増強し、売上増加に貢献しています。

3 ハイライト®

SDGsの一つに掲げられた「水・衛生環境の改善」は、グローバルな重要課題です。ハイライト®の一部グレードは、発展途上国など飲料水の衛生管理が不十分な地域で、飲料水用殺菌消毒剤の原料として規格認証を受けており、輸出しています。世界的な消毒需要と飲料水用殺菌消毒剤用途の需要に応じていきます。

4 テピック®

特長のあるトリアジン骨格を有する高機能化学品「テピック®」は、幅広い用途で使用されています。電材グレードについては、ソルダーレジストインキ用途など、情報通信をはじめさまざまな分野での需要拡大を期待できます。汎用グレードは最大市場である中国の景気低迷で国際市況が低下しました。汎用グレードでの低価格競争を避けつつ、高品質グレードを拡販しバランスの取れた販売戦略を進めています。

Vista2027の基本戦略

Strategies of Vista2027

機会とリスク

- 原燃料価格の上昇
- 半導体市場の伸長
- 環境配慮型製品の需要増加
- カーボンプライシングの導入

強み

- アンモニアを基幹原料とした誘導品展開による、高い自消率・高付加価値製品の製造プロセス
- 工業薬品の超高純度化に関する半世紀を超える研究とノウハウの蓄積

主要施策

1. メラミン事業撤退後のアンモニア系事業収益性改善
2. 高純度硫酸の拡販
3. シアマル酸、ハイライト®、テピック®の拡販・収益性向上
4. 微生物製剤 ビーナス®オイルクリーンの事業展開

Vista2027達成に向けての

取り組み

「Vista2027」初年度となる2022年6月に、半世紀以上、アンモニア系製品群の基幹製品であり続けたメラミンの製造を中止しました。一方、硫酸製品は増大する需要に応じた設備投資、設備更新を行っていきます。化学品事業は原燃料価格や需給バランス・市況の影響を受けやすく、今後も環境の変化に応じて、繰り返し、柔軟に事業戦略を見直し、安定的な収益の確保に努めていきます。

事業の持続的成長の源泉として、電子材料分野向け製品の販売強化を進めるとともに、新規製品の開発・展開に注力します。塗料・接着剤用添加剤としての効果が期待できる、「スターファイン®」(シアマル酸亜鉛)の本格事業化も開始しました。

テピック®の新グレードとあわせて、既にさまざまな用途で多くのユーザーに評価いただいています。また、微生物製剤ビーナス®オイルクリーンで廃棄物削減にも貢献していきます。

機能性材料事業

進化の早い当事業では、市場のニーズ・技術動向の迅速・的確な把握が必要であり、海外拠点を含め営業・研究・生産が一体となった顧客に密着した活動を重視しています。当社が培ってきた確かな技術力をもとにした製品・サービスの提供により、社会の発展への貢献を目指します。



社会課題・ニーズ

- IoT、5G通信の拡大や、AI、自動運転技術の進化
- カーボンニュートラルへの対応

事業ビジョン

- スマート社会実現に貢献するキーマテリアルの開発・提供
- 環境に配慮した新たな材料の開発

ディスプレイ材料

液晶分子を一定方向にそろえるための配向材を手掛けています。1989年に「サンエバー®」の販売を始め、液晶タイプがTN、STN、TFTへと変化するなか高機能化を図り、シェアを拡大してきました。さらに2014年には光配向技術を取り入れたIPS液晶用光配向材「レイアライン®」の販売を開始し、現在ではこれが主力製品となっています。これまではスマートフォン・タブレット・ノートPCに多用されてきましたが、今後は、モニターや車載用途でも高精細化が進み、さらに需要が伸びると期待しています。

半導体材料

米国Brewer Science, Inc.とのライセンス契約に基づき、1998年から「ARC®」*1の生産販売を始めました。「ARC®」は、フォトレジストを微細加工する際の光の乱反射や干渉、塗布不良などのトラブルを防止するコーティ

ング材料です。2007年には多層プロセス用材料「OptiStack®」*2を発売し、事業拡大を果たしました。

2018年にはEUV露光技術（波長13.5nm、半導体回路幅7nm以下）が量産導入され、EUV用レジスト下層膜材料にも適用されています。現在、量産品の高品質化および次世代向け開発を進めるとともに、微細化の限界に備え、三次元実装技術にも注力しています。

*1、2 ARC®、OptiStack®は、Brewer Science, Inc.の登録商標です。

無機コロイド

1951年、繊維処理剤としてナノシリカの水分散液、「スノーテックス®」の販売を開始、現在では有機溶媒分散液である「オルガノシリカゾル」や、無溶剤で利用できる「モノマーゾル」を提供しています。これらの製品は光学フィルムのコーティング剤、電子基板材料の研磨剤などの分野で使用される、必要不可欠な材料です。今後はCCS/CCUS関連材料の開発に取り組み、環境配慮型新製品への用途展開も図っていきます。

2024年度の進捗

1 液晶配向材の需要拡大

現在は、スマートフォン、IT機種、車載向けの配向材、特にIPS液晶用光配向材がディスプレイ材料の主力となっており、2024年度は主要顧客の生産増もあり7%の増収となりました。TV向けの拡大展開に向けた開発も進めています。液晶TV需要は面積ベースでは今後も拡大していくという予測が出ています。また高精細化も進行すると考えられ、顧客からの技術要求に的確に対応し、当社製品のシェア拡大を図ることが重要なテーマであると認識しています。

2 半導体材料の開発力強化と増産体制の構築

先端向けEUV材料の開発力を強化し、現行世代の品質強化および次世代向けEUV材料の開発に注力しています。生成AIに代表される先端向け半導体の需要増による市場成長に伴い、2024年度は32%の増収となりました。また、HBM*3の需要増により実装材料向けのニーズも高まり、仮貼り合せ材料も着実に売り上げを伸ばしています。今後もリソ材、実装材ともに顧客ニーズを捉え、顧客とともに成長していけるよう材料開発に取り組んでいきます。



*3 HBM : High Bandwidth Memory

3 スノーテックス®、オルガノ・モノマーゾル増販

スノーテックス®、オルガノ・モノマーゾルの増収により2024年度は18%の増収となりました。スノーテックス®は研磨剤向け、オルガノ・モノマーゾルは情報通信、3DP、EVモーター向けが特に好調でした。今後も顧客ニーズに沿った研究開発を進めていきます。また、カーボンニュートラルに向けた材料開発にも引き続き取り組んでいます。

Vista2027の基本戦略

機会とリスク

- IPS液晶用光配向材の適用拡大、OLED市場の伸長
- 半導体市場の拡大と三次元実装技術の進展
- スマート社会の発展
- 企業間競争の激化

強み

- 中国、台湾、韓国顧客に密着した販売、研究体制
- 光制御技術
- 機能性高分子設計技術
- 微粒子制御技術

主要施策

1. 現有製品の改良・用途拡大
2. 設備増強・整備
3. 新製品の開発・上市

Vista2027達成に向けての

取り組み

次世代ディスプレイ材料

液晶よりも薄型軽量で高速応答などの特長を持ち、フォルダブル化などの付加価値を有するOLEDがスマートフォンやプレミアムテレビなどに採用されるケースが増えてきました。最近では有機ELに続き、量子ドット（QD）やLEDの技術を組み入れてより高画質をうたう次世代自発光ディスプレイも盛んに開発されています。当社は、光制御材料、機能性フィルム用材料、QD関連材料などの独自材料開発を進め、実需化を目指していきます。

半導体実装材料

生成AI、IoT、5G、センサーなど、高速大容量

の情報通信に関わる技術が加速的に進歩しています。これに対応して電子回路形成におけるさらなる微細化・高集積化が進行しています。当社は薄片化した半導体ウェハを三次元に積層化する実装プロセス向け材料開発にも取り組んでおり、市場の拡大にあわせて拡販していく計画を立てています。

無機コロイド材料

スノーテックス®は需要増が見込まれる半導体向け研磨剤の増販および供給体制の整備を行っていきます。また、Oil & Gas事業の拡大や次世代材料の開発として新規オルガノシリカゾル、高屈折材料の開発促進、早期実需化の計画を立てています。

農業化学品事業

新規薬剤の探索から開発・製造・販売までの一貫した事業活動と、他社剤の買収や共同開発による幅広い製品ラインアップの拡充を通じて、安定した食料の供給に貢献します。

社会課題・ニーズ

- 食料の安定供給
- 収穫物への残留農薬や環境負荷を低減させた低リスク農薬へのニーズの高まり
- 農業の持続的な発展

事業ビジョン

- 特長ある化学合成農薬の提供
- バイオ農薬の開発
- 地域に寄り添った雑草問題への対応

農薬

1910年代、当社前身の日本舎密製造と関東酸曹で殺虫・殺菌剤の製造・販売を開始したことから当社の農業化学品事業は始まりました。1984年に上市した「タルガ®」(畑作用除草剤)を皮切りに、「シリウス®」(水稻用除草剤)、「サンマイト®」(殺虫・殺ダニ剤)、「パーミット®」(水稻・トウモロコシ用除草剤)、と自社開発品の製造・販売が続き、着実に収益性を高めてきました。

その後、自社開発の遅延や競合会社との競争激化と苦しい時期がありましたが、2008年に「ライメイ®」(殺菌剤)を上市してからは、再び自社開発品を堅調に市場に投入し続け、2009年には「スターマイト®」(殺ダニ剤)、2012年には「アルテア®」(水稻用除草剤)、2018年には「グレースシア®」(汎用性殺虫剤)の販売を開始しています。加えて、他社剤の買収も積極的に進めており、2019年にグローバル製品「クインテック®」(殺菌剤)、2020年には

汎用性のある「ダイセン®」(殺菌剤)の日本と韓国事業を継承し、農薬製品ポートフォリオを充実しました。そして2025年には、抵抗性、難防除雑草に卓効を示す水稻用除草剤「ベルダー®」(原体名:ジメスルファゼット)を含有する製品として、日本では「ゼアス®」「銀河α®」を2月に発売開始し、続いて同剤の韓国での開発も進めています。

動物用医薬品

当社は農業用殺虫剤の開発を進めるなかで、農作物の害虫だけでなく、イヌ・ネコに寄生するノミ・マダニの駆除にも効果がある化合物を発見し、動物用医薬品の検討を続けてきました。2008年、インターペット社とライセンス契約を締結。当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とする動物用医薬品の開発が進展しました。

2014年に欧米で「ブラベクト®錠」*の商品名で販売を開始し、現在では「フルララネル」を有効成分とする動物



2024年度の進捗

1 グレースシア®

自社開発の殺虫剤であり、幅広い作物害虫に速効的に作用し、有用昆虫であるミツバチへの影響が少ないなどの特長を有します。2018年に韓国で上市し、2019年5月に国内販売を開始しました。2021年以降アジアおよび中東各国での上市を果たし、2024年はアルゼンチンでの登録が認可されました。今後も上市を順次予定しています。



2 ラウンドアップ®

「ラウンドアップ®マックスロード」の省力的な散布を可能とする「ラウンドノズル®ULV5」は、これまでの背負用、ブームスプレーヤ用(北海道用含む)に加え、2024年にカバーレスのULV5-Lightを発売し生産者のニーズに応えながら「ラウンドアップ®マックスロード」の販売増を進めています。一般家庭向けの「ラウンドアップ®マックスロードAL」は、引き続き新規ユーザーの獲得および小売流通の拡大による販売増を見込んでいます。

3 フルララネル

フルララネルを原薬とするペットおよび家畜用動物薬は、100カ国以上で発売されています。フルララネルを原薬とする動物薬は、2024年度もペット向けを中心に前年度比販売増を達成しました。少子高齢化の進行に伴い、ペットは飼い主にとって家族同然の存在という考え方が浸透しています。ペットの健康に配慮する意識の高まりに伴い、今後ますます動物薬の需要は増える見込んでいます。

用医薬品は100カ国以上で愛用され、農業化学品事業部を牽引する製品に成長しています。また、イヌ・ネコ以外の対象では鶏、牛、羊向けの「エグゾルト®」*も登録取得国

を増やしています。

*ブラベクト®、エグゾルト®は、Merck & Co., Inc.の子会社である Intervet International B.V. の登録商標です。

Vista2027の基本戦略

機会とリスク

- 生産者の集約化／大型化と農業生産形態の変化
- 世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まり
- バイオ系農薬・資材の伸長
- ペット市場の拡大

強み

- 精密有機合成と生物評価というコア技術による特長ある新農薬の創出能力
- 探索から製造・販売まで長年にわたる経験と実績
- 高利益率の維持と継続成長で培った高いモチベーション

主要施策

1. グレースシア®など主力剤の普及・拡販、大型生産者・法人、一般消費者向けの各取り組み継続強化
2. 市場成長が見込まれるASEANおよびその周辺国において、2023年7月にシンガポールに設立した現地法人(Nissan Chemical Agro Singapore Pte. Ltd.)を中心に、販売・プロモーション活動を強化
3. NC-656(新規除草剤)、NC-520(新規水稻箱処理殺虫剤)の着実な開発と新たなパイプライン創出
4. バイオ農薬開発プロジェクトチームの発足と上市に向けたマスタープラン策定

Vista2027達成に向けての

取り組み

製品ポートフォリオを充実させるため、バイオ農薬を含め他社製品の導入および共同開発を継続して実施していきます。

また、自社開発品としては水稻湛水处理用除草剤(ベルダー®)に引き続き、水稻茎葉散布用除草剤(開発コードNC-656)、水稻箱処理殺虫剤(開発コードNC-520)の開発も始めています。さらに、インドに農薬原体製造を目的として、合弁会社(Nissan Bharat Rasayan Private Limited)を設立し、2023年3月商業生産を開始しました。本合弁会社の原体工場が小野田工場に加わることで、当社農薬の需要拡大に対応

しつつ、コスト競争力も兼ね備えた堅牢な農薬原体生産・供給体制を構築することにより、農業事業の成長に貢献できると期待しています。



Strategies of Vista2027

ヘルスケア事業

事業環境の変化を適切に捉え中長期的に成長するため、グローバル展開および事業領域の選択と集中を加速し、当社独自技術をもとに新薬、ジェネリック医薬品および医療材料の開発／上市を通じて健康問題の解決へ貢献します。



社会課題・ニーズ

- 少子高齢化に伴う医療サービス・医薬品の重要性の高まり
- 健康寿命延伸への意識の高まり
- 個別化医療、予防的医療に加え、より安全で効果の高い医薬品
- 医薬品の安定供給

事業ビジョン

- 従来の医薬品の創製に加え、医療材料を含むより広いヘルスケア領域の新製品創出
- アンメットメディカルニーズへの対応により、人々の健康、生活の質の向上へ貢献

ヘルスケア

1970年代、異業種からの医薬品事業への参入が相次ぎました。当社は生活習慣病にテーマを絞って研究開発を開始し、1994年に高血圧症治療薬「エホニジピン塩酸塩」を上市しました。日本ではゼリア新薬工業から「ランデル[®]錠」*1として、韓国ではGCBiopharmaから「FINTE[®] tab」として販売されています。

2003年には高コレステロール血症治療薬「ピタバスタチンカルシウム水和物」を「リバロ[®]錠」*2として興和から上市し、世界30カ国以上で販売されているとともに2022年にはエゼチミブとの配合剤である「リバゼブ[®] 配合錠」として日本国内での上市を皮切りに海外開発を継続しています。

新薬開発から医療材料へ展開、より広いヘルスケアという総合的な視点で新製品創出に向け事業を展開しています。

ファインテック[®]

顧客のニーズに合わせて医薬品原薬開発をトータルにサポートする課題解決型受託事業および共同開発型事業を展開しています。前臨床から商業生産に至る各ステージでの製造プロセス開発およびcGMP適合下での医薬品原薬・中間体の製造受託に加え、これに付随する品質設計、安定性試験、不純物・代謝物標品合成、原薬等登録原簿申請資料作成なども対応しています。

近年は、ジェネリック医薬品原薬供給の事業を拡大させ、封じ込めが必要な高活性原薬への対応はもとより、多岐にわたる精密有機合成技術に基づく独自の二成分連結法によるプロスタグランジン誘導体に加え、ビタミンD₃誘導体などの医薬品原薬を効率的に製造しています。さらには、画期的な独自液相合成技術「SYNCSOL[®]」の開発によるペプチド製造を行っています。

*1 ランデル[®]は、ゼリア新薬工業株式会社の登録商標です。

*2 リバロ[®]は、興和株式会社の登録商標です。



2024年度の進捗

1 新薬開発を推進

当社が創製した新規疼痛治療薬候補化合物（NIP-322）に関するライセンス契約をマルホ株式会社と締結しました。当社は原薬を供給するとともに安全かつ高い治療効果を有する新規疼痛治療薬の開発に取り組んでいます。

2 効率的なペプチド製造技術の確立と実需化

2018年に特殊ペプチド医薬品原薬の安定的な供給体制の確立を目指すペプチスター社に出資。この間、飛躍的なコスト削減を可能とする新規ペプチド液相合成技術（SYNCSOL[®]）の開発に至りました。現在、当該技術を駆使し、新規ジェネリック原薬の開発を進めています。今後、ペプチド製造受託の事業を拡大していきます。



3 高生理活性ジェネリックの継続的上市と市場拡大

封じ込め設備を拡充、高活性原薬の新規開発を加速しています。プロスタグランジン（「リマプロスト」）、活性型ビタミンD₃誘導体（「マキサカルシトール」「エルデカルシトール」）に続く製品として、国内に加え海外市場への展開も視野に入れ、安定供給体制を整え、成長の源泉として育てていきます。

Vista2027の基本戦略

Strategies of Vista2027

機会とリスク

- ジェネリック医薬品の増勢
- 中分子医薬開発への取り組み拡大
- 高齢化と医療の多様化
- 政府主導による創薬エコシステム構築（研究／開発／製造受託ビジネスの活性化）

強み

- 精密有機合成技術
- cGMP体制下による高度封じ込め技術
- 原薬CMC対応力

主要施策

1. ヘルスケア：新薬開発の推進、医療材料の実需化・拡販
2. ファインテック[®]：高収益ビジネスモデルの強化、海外市場への展開、共同開発の指向（ペプチドなど）

Vista2027達成に向けての

取り組み

製薬各社との共同開発を着実に推進します。リバロ[®] 原薬は、スケールメリットと海外実績を活かして展開します。医療材料は、生体界面制御材料や細胞培養材料の新製品の実需化や拡販を進めます。2015年度に上市したジェネリック医薬品マキサカルシトールに加え、2020年度に上市した同エルデカルシトールは、事業の柱として大きく成長を遂げました。今後は、当社の強みを活かした新規ジェネリック原薬の開発を加速するとともに製造設備および開発体制を拡充し、国内のみならず海外でのビジネスを本格化し

ます。

また、独自液相合成技術SYNCSOL[®]の圧倒的技術優位性を武器にペプチド受託事業および共同開発事業を展開することにより、ファインテック[®]をさらに高収益性事業として発展させていきます。

新薬や医療材料の成果獲得には時間がかかります。それまでの期間は、高収益性ファインテック[®]事業で屋台骨を支えながら、新薬と医療材料の開発に果敢に挑戦し続けていきます。

企画本部

企画本部は、情報通信、環境エネルギー、ライフサイエンスなどの新しい分野において、社会ニーズに応える高付加価値な新製品・新事業の創出に取り組んでいます。この早期実現を目指し、2025年4月に組織改編を実施、新体制では注力テーマを明確に設定しました。また、当社コア技術に新素材・新技術を融合させ、化学の限らない可能性に挑戦を続け、未来創造企業として成長してまいります。



社会課題・ニーズ

● 気候変動問題や地球環境保全、難治性疾患治療による健康問題への貢献、スマート社会への変革など、持続可能な社会に向けて直面する社会課題の解決

事業ビジョン

● 社会課題解決に貢献する新事業の構築
● 新分野で成長エンジンとなる事業創生
● 社内外の新技術を活用した新製品創出

ヘルスケア

核酸医薬を中心とした創薬研究、再生医療関連材料の事業化に向けた企画開発を行っています。

創薬研究では、核酸医薬に注力、画期的な新薬創出により患者様のQOL向上に貢献するため、アカデミアやパートナー企業との協業によるプラットフォーム強化と製薬企業との提携により堅牢な研究開発ポートフォリオの構築を進めています。

再生医療分野では、細胞の製造プロセスへの適用を狙って、各種材料の開発に取り組んでいます。細胞の高機能化を狙った足場材「Cellhesion®」、細胞の均一分注および保存・輸送材「FCeM® Advance-CR」、タンパク質や細胞などの容器への付着防止材である「prevelex®」を通じて、市場開発を推進しています。

アニマルケア

動物用医薬品分野の事業化に向けた企画開発に取り組んでいます。当社が長年培ってきた低分子医薬品の技術を活用した動物用医薬品の企画開発ならびに動物用医薬品の日本国内での販売／流通体制構築に向けた戦略の策定を進めています。

SA事業化

電気自動車に使用されるリチウムイオン電池向け材料の拡販および新規グレード開発を行っています。製品のひとつであるスラリー添加剤(SA)は、リチウムイオン電池の性能および生産向上に寄与し、早期の事業拡大を目指しています。

光配線材料

社会のデジタル化によるデータ量の増加と相まって、高

性能半導体チップを用いた電子機器やサーバーには、低消費電力、低遅延、発熱抑制が求められており、その解決策として「光電融合技術」が期待されています。光導波路材料などの光電融合技術を支える新材料開発を進め、デジタル社会の進展に貢献します。

放熱材料

半導体プロセスルールのさらなる微細化や、パワー半導体の拡大に伴う熱マネジメントの重要性が増す中で、液体金属を含有する放熱材料(TIM)を保有するArieca Inc.との協業により、顧客の要請に対応した材料開発を加速させています。

エネルギー材料

持続可能な社会の実現に貢献する製品開発に尽力しています。水素エネルギー活用のため、燃料電池または水電解デバイスの触媒層用イオン伝導ポリマー材料やペロブスカイト太陽電池の耐久性向上に寄与するコーティング材料、その他次世代電池の性能向上に寄与できる素材の開発を進めています。

新領域事業企画

当社未踏の新領域において開発テーマの発掘、スタートアップからの技術導入、企業連携・アライアンスの企画を通じて有望な新規事業の企画・立案に取り組んでいます。

研究統括部門

研究所とともに、新しいコア技術の成長に取り組んでいます。また、研究員育成やテーマ支援を通して研究開発力の強化や研究環境改善を進めています。

2024年度の進捗

1 核酸創薬

2019年3月より株式会社三和化学研究所とは脊髄小脳変性症の一種である歯状核赤核・淡蒼球レイ体萎縮症(DRPLA)の治療を目的としたアンチセンス核酸の創製に共同で取り組み、開発化合物SK-2407／SN-001を選定いたしました。今般、共同開発契約を締結し、当社は三和化学に核酸原薬を製造・供給してまいります。また、同社との提携を拡大し、両社の創薬力を結集することにより戦略的に複数の新規核酸医薬品候補化合物の創出を目指します。

2 動物用医薬品開発

MSDアニマルヘルス社と日産化学は、今後の動物用医薬品分野における両社の事業拡大を見据え、新規動物用医薬品創出に向けた共同研究開発を開始し、パートナーシップをさらに強化することに合意しました。

3 LIBSOLVER™

電気自動車(EV)向けのリチウムイオン電池(LIB)には航続距離を延ばすために高容量化が求められています。「LIBSOLVER™」は、高容量LIBの電極材料スラリー中に微量添加することで、電池性能および生産性向上に寄与します。現在は、量産体制構築に移行しています。

Vista2027の基本戦略

Strategies of Vista2027

